

令和6年度 事業実施状況報告書（事業報告書）
（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

1 会員総会

(1) 令和6年度 定時会員総会

- 1) 日時 令和6年6月14日(金) 午後1時30分
- 2) 場所 全酪連役員会議室 東京都渋谷区代々木1-37-2 酪農会館2階
- 3) 議事
第1号議案
令和5年度事業報告書・貸借対照表・正味財産増減計算書に関する件
第2号議案
令和6年度会費及び賛助会費の額並びに納入方法決定に関する件
第3号議案
役員報酬等の支給に関する件

(2) 令和6年度 臨時会員総会

- 1) 日時（書面決議日） 令和6年10月9日(水)
- 2) 議事
第1号議案 欠員理事の選任の件

選任	退任
岡田 征雄（理事）	三国 貢（理事）
清水 清人（理事）	臼井 節雄（理事）
檜尾 康知（理事）	長恒 泰治（理事）
露崎 正二郎（監事）	白岩 茂樹（監事）

2 理事会

(1) 令和6年度第1回理事会

- 1) 日時 令和6年5月28日(火) 午後1時
- 2) 場所 全酪連役員会議室（酪農会館2階）
- 3) 議事

令和6年度定時会員総会の議事に付すべき事項の決定の件

(2) 令和6年度第2回理事会

- 1) 日時（書面決議日） 令和6年9月18日(水)
- 2) 議事

第1号議案

臨時会員総会の開催の件

第2号議案

会計処理規程の改正の件

(3) 令和6年度第3回理事会

- 1) 日時 令和7年3月3日(月) 午後1時
- 2) 場所 全酪連役員会議室(酪農会館2階)
- 3) 議事

第1号議案

令和6年度事業実施状況の報告に関する件

第2号議案

令和7年度事業計画書及び収支予算書に関する件

第3号議案

令和7年度定時会員総会等の日時及び場所並びに議事に付すべき事項の決定に関する件

3 監事監査(令和5年度末)

- (1) 日時 令和6年5月17日(金) 午後12時45分
- (2) 場所 酪農会館会議室 東京都渋谷区代々木1-37-2

4 令和6年度事業概況

酪農ヘルパー事業の推進、酪農ヘルパーの要員確保・定着化等図るための事業を行った。各事業の実施状況については以下の通りである。

(1) 一般事業

1) 酪農ヘルパー要員確保と事業の普及推進活動

利用組合の酪農ヘルパー要員の確保を支援するため、当協会のホームページを活用して酪農ヘルパーに関する情報を積極的に発信するとともに、利用組合の要請に基づいて「酪農ヘルパー募集」の求人情報を掲載した。

都道府県団体や利用組合の活動に関する情報を提供するため、当協会ホームページに「ヘルパー組合の活動紹介コーナー」を設けて随時更新するとともに、(一社)全国酪農協会が発行する全酪新報、全農酪農経営体験発表会、九州連合ホルスタイン共進会、全国農業新聞など酪農ヘルパーに関する広告を掲載した。また、全国酪農青年女性酪農発表大会に広告の掲載及びブース出展などを行った。

2) 会長表彰事業

12月に「令和6年度 酪農ヘルパー全国協会 会長表彰式」を開催し、都道府県団体や利用組合から推薦のあった「長年現場にあって献身的にご活躍いただいている酪農ヘルパー」、「酪農ヘルパーからの新規就農者」に対して会長表彰を行った。地域でベテランヘルパーとして活躍されている酪農ヘルパー(10名)、酪農ヘルパー就業経験1年以上であって新規就業した酪農家(1名)を表彰し、その模様を動画として編集し当協会ホームページから視聴できるようにした。

3) 会員団体等との事業活動連携

- ア. 会員団体等と酪農ヘルパー事業に関する情勢報告やヘルパー要員確保などに関する意見交換を行うとともに、11月に農林水産省畜産局が実施する「中央畜産技術研修会」へ講師を派遣した（参加者45名）。
- イ. 会員団体などに対して、酪農ヘルパー事業の推進情報として「メールマガジン」を発信した。
- ウ. 12月4日に開催した酪農ヘルパー事業優良事例発表会の内容を中心に、今年度の活動を「酪農ヘルパー情報」にまとめ、3月に発刊した。
- エ. 下記の研修会に参加し酪農ヘルパー事業について講演を行った。
 - (ア) 栃木県酪農ヘルパー研修会（11月18日 参加者44名）
 - (イ) 岩手県酪農ヘルパー組合長・事務局研修会（3月13日 参加者20名）

4) 酪農ヘルパーの養成活動

- ア. 2月に3年以上の経験を有する酪農ヘルパーを対象に「酪農ヘルパー中級者研修」を北海道農業協同組合学校（JAカレッジ）において実施した（参加者6名）。
- イ. 4月から9月の間に酪農ヘルパーの職業体験として、全農長野八ヶ岳牧場において「酪農体験実習」を実施した（参加者計6名）。

5) 業務中の傷害時補償制度の推進

臨時ヘルパーの出役中（往復途上含む）の事故傷害に対応するため「臨時酪農ヘルパー傷害保険（普通傷害）」の加入手続きを行うとともに、加入促進を図った。

参加都道府県数	利用組合数	加入ヘルパー人数	保険料実績総額(千円)
38	266	499	1,745

6) 酪農技術養成研修時の傷害保険料の補助(当協会主催に限る)

研修期間中の事故傷害や損害補償に対応するため、国内旅行傷害保険に加入し保険料については全額当協会が負担している。

今年度の実施は以下の通りとなった。

- ア. 初任者研修（参加者75名）
- イ. 中級者研修（参加者6名）
- ウ. 酪農体験実習（参加者6名）
- エ. 中堅酪農ヘルパー指導力向上研修（参加者12名）

(2) 酪農経営支援総合対策事業「酪農経営安定化支援ヘルパー事業」

(独立行政法人農畜産業振興機構（ALIC） 公募事業)

ゆとりある生産性の高い酪農経営の実現及び担い手の確保を図るため、酪農ヘルパー事業の普及・啓発、利用組合の運営改善などに取り組む以下の事業を実施した。

1) 酪農ヘルパー利用実態調査の実施

酪農ヘルパー事業の充実を図るため、令和6年8月1日現在の酪農ヘルパー利用組合の事業概況及び令和5年度の酪農ヘルパー利用実績に係る調査を実施した。この結果は速報値(未定稿)として12月に発信し、確定値については「酪農ヘルパー利用に関する資料(冊子)」としてまとめ、3月に会員、都道府県団体、利用組合及び関係機関に配付した。

2) 酪農ヘルパー事業の広報活動

当協会のホームページでは「酪農ヘルパーの具体的な仕事内容」や「就業に至る流れなど」を紹介するとともに、各地の酪農ヘルパー募集情報や学生インターンシップの受入情報などについても発信している。また、酪農ヘルパー要員の確保や職業認知度の向上に資するため、学生インターンシップの募集ポスターを作成し各地の農業大学校や動物関連専門学校など約120先に配付するとともに、職業としての酪農ヘルパーを周知するためのリーフレットを作成し、農業関係教育機関や動物系専門学校等に配布した。

職業としての酪農ヘルパーの認知度の向上を図るため、若年層のアクセス数が期待できる農業系の求人サイトに広告記事を掲載するとともに、6月中旬から7月中旬の間、インスタグラムにも広告を掲載した。

酪農ヘルパーのイメージギャップの解消を図るため、酪農ヘルパーの作業イメージ動画を作成し、当協会のホームページに掲載するとともに、希望する利用組合等でも活用できるようにした。

酪農ヘルパーの募集支援活動として、農業の魅力と仕事を紹介する「新・農業人フェア2024(8月東京国際フォーラム、10月グランキューブ大阪、12月東京ビッグサイト)」へ出展した。

また、動物系専門学校の卒業生が酪農ヘルパーへ就業する事例が増えている状況を踏まえ、盛岡・仙台・東京・大宮・大阪・福岡にある動物系専門学校(8校)を訪問し、酪農ヘルパーについての周知や意見交換を行うとともに、大阪府立の農業高校も訪問した。

3) 人材コンサルタントを活用したヘルパーの採用・定着の促進に向けた取組

酪農ヘルパーに関心を持ってもらうため、人材コンサルティング会社に依頼し、酪農ヘルパーへの就職実績のある動物系専門学校(17校)の学生を対象に、酪農ヘルパーの認知度調査を行い、調査結果を集計したものを関係者間で共有し、酪

農ヘルパーの認知度向上・要員確保のための資料として活用できるようにした。

4) 酪農ヘルパー専門技術員養成研修(初任者研修)の実施

搾乳を中心とする酪農家作業の代行業務や新規就農などに向けた技能の蓄積及び向上に資するため、新人の酪農ヘルパーを対象に「酪農ヘルパー専門技術員養成研修(初任者研修)」を実施した。

今年度の実施内容は以下のとおり。

ア. 1週間コース

(ア) 5月 ホクレン農業総合研究所 訓子府実習農場(北海道訓子府町)

(参加者9名)

(イ) 6月 北海道立総合研究所 酪農試験場(北海道中標津町)(参加者13名)

(ウ) 6月 全酪連酪農技術研究所(福島県矢吹町)(参加者6名)

(エ) 7月 十勝農業協同組合連合会(北海道帯広市)(参加者21名)

(オ) 10月 ホクレン農業総合研究所 訓子府実習農場(北海道訓子府町)

(参加者10名)

(カ) 1月 北海道農業協同組合学校(北海道江別市)(参加者5名)

イ. 2週間コース

(ア) 11月 中国四国酪農大学校(岡山県真庭市)(参加者11名)

5) 中堅酪農ヘルパー指導力向上研修の実施

新人酪農ヘルパーの定着化のキーマンである中堅酪農ヘルパーを対象に、指導力やコミュニケーション能力の向上を図るための「中堅酪農ヘルパー指導力向上研修」を10月に札幌市(参加者9名)、1月に神戸市(参加者3名)で開催した。

なお、本研修は、令和4、5年度は当協会の独自事業として実施したが、令和6年度はALIC事業を活用し実施した。

6) 優良事例発表会の開催

当協会では酪農ヘルパー事業の普及・啓発を図るため、優良事例を紹介する「酪農ヘルパー事業中央研究会(優良事例発表会)」を平成14年度から実施している。

今年度から名称を「酪農ヘルパー事業優良事例発表会」に改称し、令和元年度以来、5年ぶりに大きな会場において対面形式で開催した(参加者58名)。

取組事例として、「酪農ヘルパーから牛写真家へ」(牛写真家・元酪農ヘルパー 高田 千鶴氏)、「福岡県における利用組合組織統合と課題」(ふくおか県酪農業協同組合 志岐 秀雄氏)及び「酪農ヘルパーとして働き、思うこと」(栃酪酪農ヘルパー利用組合 田代 隆則氏)の3氏が発表した。

また、酪農ヘルパーからの新規就農事例として、熊本県で新規就農した佐藤 翔悟氏を取材し、新規就農の経緯や新規就農を目指す人へのメッセージ等をビデオ収録し、会場で放映した。また、この動画を当協会ホームページから視聴できるようにした。

7) 酪農ヘルパーの要員確保に向けた検討会

職業としての酪農ヘルパーの認知度の向上、酪農ヘルパーの要員確保に向けた課題の整理・解決策等について検討を行い、酪農ヘルパー要員の確保・定着化を図ることを目的に、酪農ヘルパー利用組合・都道府県団体・動物系専門学校等を構成員とした「酪農ヘルパーの要員確保に向けた検討会」を7月に開催した（参加者9名）。

5 会員の動向（令和6年度）

区分	会員			賛助会員
	中央団体	都道府県団体	合計	
期首	13	43	56	12
期末	13	43	56	12
増減	0	0	0	0

6 役職員の動向（令和6年度）

区分	役職員(受入出向含む)	臨時職員	合計
期首	4	1	5
期末	5	1	6
増減	1	0	1

(末日付けの退職者は本年度減少に含む)

注：令和7年2月1日付け人事異動で職員が1名増となったが、これは、円滑な業務の引継ぎのための1年間の期間限定の措置である。